

研究・調査報告書

報告書番号	担当
12	滋賀医科大学社会医学講座公衆衛生学
題名 (原題/訳)	
Alcohol misuse and multiple sclerosis. アルコール乱用と多発性硬化症	
執筆者	
Turner AP, Hawkins EJ, Haselkorn JK, Kivlahan DR.	
掲載誌 (番号又は発行年月日)	
Arch Phys Med Rehabil. 2009 May;90(5):842-8.	
キーワード	
多発性硬化症、アルコール乱用、医療者からアルコールに関するアドバイス	
要 旨	
<p>背景： 多発性硬化症の退役軍人におけるアルコールの乱用と節酒の医学的アドバイスについての頻度について検討した。</p> <p>方法： 2004年から2006年までの郵送による調査データと Veterans Health Administration (在郷軍人健康管理局)でコンピューター管理されている医療情報とをリンクして断面調査を行った。2004年から2006年までに在郷軍人健康管理局のサービスを受け、多発性硬化症と診断された4929名の退役軍人のうち、質問票を返送した2655名を対象とした(応答率53.9%)。地理情報、SF12健康調査票、アルコール使用に関する調査票(AUDIT-C)、鬱に関する評価、アルコールに関するアドバイスを医療者から受けているかについて評価した。</p> <p>結果： 多発性硬化症の調査参加者のなかで、アルコールの乱用の頻度は13.9%(95%信頼区間 12.5~15.2%)であった。スコアリングによると中軽度のアルコールの乱用と高度のアルコール誤用の頻度は順に11.9%(95%信頼区間 10.6~13.2%)と2.0%(95%信頼区間 1.4~2.5%)であった。この割合は一般住民の頻度とほとんど変わりがなかった。多変量解析では60歳以下(50歳以下は調整オッズ比が1.66、95%信頼区間が1.17-2.37、50~59歳はオッズ比が1.64、95%信頼区間が1.19~2.27)、雇用者(調整オッズ比1.54、95%信頼区間1.06-2.24)で身体的に健康(調整オッズ比1.02、95%信頼区間1.01-1.04)はアルコール乱用と関連を認めた。アルコール乱用者のうち、26.2%(95%信頼区間 21.5~30.9%)は節酒あるいは禁酒に関するアドバイスを医療者から受けていた。アドバイスは重度のアルコール乱用者で多く受けており(調整オッズ比3.65、95%信頼区間1.85-7.17)、精神的に健康な者では(調整オッズ比0.97、95%信頼区間0.94-1.00)低い傾向があった。</p> <p>結論： アルコール乱用の社会的、健康的な問題にもかかわらず、多発性硬化症患者へのルーチンのスクリーニングや介入は一般的でない。短期間のアルコール乱用のスクリーニングと節酒、禁酒のアドバイスは5分程度で可能であり、通常の医療ケアに取り込むことが可能である。</p>	